読者のみなさんでつくる みんなの広場

「身近な出来事やイラスト」「テーマトーク」募集中！

幸せって

退職して9カ月。ふと思いついて、いつも車で行くスーパーに自転車で行ってみた。10分で着いてびっくり。秋の風景を眺め気分も上々。うっかり鍵をかけ忘れた自転車もちゃんとあった。お金はないけど、なんか幸せっていろいろだなぁと感じる1日でした。

加賀市 ばばば

息子の背中

今年小学1年生になった息子は校区外の保育園だったため友だちはおらず、私も心配していました。先日授業参観で男の子が私のところへ来て「○○のお母さん！○○が『友だちになろう』って言ってくれたんだ！だから友だちになったんだよ！」と教えてくれました。知らないところで友だちづくりを頑張っていたんだなと感心しました。今日もまた小さくて少し頼もしくなった息子の背中に「頑張れー」とエールを送りながら見届けました。

白山市 とまと

金沢市 福娘

素敵な女性

先日、子どもたちを連れて病院へ。大変混雑していたため待ち時間が長く、長女は不機嫌、やんちゃ盛りの二女は大暴れ、三女は大泣き。てんやわんやの私を見かねて、近くに座っていた女性が長女と二女を引き寄せ一緒に遊んでくれました。その素敵な女性のおかげで子どもたちの機嫌も良くなり、私自身もほっと一息つくことができました。スマートなありがたい対応に心が温まり嬉しくなりました。

金沢市 なまず

三日月

先日幼稚園へお迎えに行った帰りに車窓から娘が「あっ、お空にお月さま♡」とつぶやきました。信号が赤になったとき、夕暮れどきの空を見上げると細い細い三日月が…。秋の夕暮れの澄み切った夜空がこの上なくきれいでした。慌ただしく過ぎていく日々に娘の何気ない一言が私の心をふと立ち止まらせ、久しぶりに自然の美しさをしみじみと感じさせてくれたそんなひとときでした。

金沢市 花ちゃん

突然の帰省に大慌て

連休に帰省しないと思っていた息子たちが帰ってくることになり、さぁ大変！何の準備もしておらず布団を干したり生協の注文は間に合わずスーパーに走ったりと慌てました。でもグレープフルーツなど家族全員「生協の方がうま味があっておいしい」という意見！生協商品のありがたさを改めて感じました。

小松市 M・K

古人の教え

「今日という日は残りの人生の最初の日である」と誰かが言っていましたが、その言葉とともに「明日死ぬと思って生きよ。いつまでも生きると思って学べ」という古人の教えを殊勝にも思い出すのは1月だからこそでしょうか。今年こそ引き締まっていきたいのですが…。

金沢市 スローペース

「健康チャレンジ」頑張りました

「いしかわまるごと健康チャレンジ」を頑張りました。きっかけは腰痛です。筋肉の衰えからくる痛み、肥満、老化現象だそうでがっくりきました。リフトアップやほうれい線の予防にあいうべ体操もしっかりやります。

金沢市 マッキー

金沢市 津田 恵子

テーマトーク 今月は お雑煮のエピソード

けんかの種

実家の母は金沢生まれの京都育ちでしたので、丸餅のすまし汁のお雑煮でした。私が結婚して作ったところ、夫に金沢は切り餅だと言われ、お正月早々けんかになってしまったことがありました。それぞれの家庭で違うのだとそのとき初めて知りました。懐かしい思い出です。

金沢市 にゃんまま

具沢山VSアッサリ

息子の嫁は広島出身。結婚して初めてのお正月に出されたお雑煮に〝ゲッ！〟広島は魚や貝類が入った具沢山の雑煮。わが家はすまし汁に餅とカマボコ、三つ葉、柚子とアッサリ！お互いにそれが当たり前だと思って育ったんだから当然かも。ちなみに広島ではつきたてのお餅にみかんを入れる「みかん餅」があるそう。所変われば品変わるですねぇ～。

加賀市 おたママ

今では大好き

40年前寮生活をしていた頃、冬休みが明けて先輩の部屋に招かれてお雑煮をごちそうになったときのことです。お椀の中に丸いお餅とねぎ、かつおぶしだけのお雑煮。県外出身の私はとてもビックリしてしまい、学生だからこんな質素なお雑煮なんだなとそのときは思っていましたが、加賀に嫁いでもやっぱりお雑煮はこのスタイルでした。数年は慣れないこともあってお雑煮を食べるのが苦手でしたが、今では昆布だしの利いた、素材を十分に活かしたこのお雑煮が大好きです。

加賀市 マーちゃん

次回のテーマトークのお題は
「春から始める○○」

組合員活動アルバム Palette ぱれっと

沖縄発のピースソング

日程 11月9日(土)
場所 小松センター
主催 南加賀地域協議会
参加者 大人34名、子ども22名

石川の食文化！かぶら寿司づくり

日程 11月17日(日)
場所 野々市市富奥防災コミュニティセンター
主催 石川西地域協議会　講師 ぶった農産　参加者 大人19名

まど

機関紙モニターによるエッセイ

2つの名前

書き人 大貫 文恵

私の誕生日は1月1日。新年のスタートのたびに、多くの人たちが私の誕生日を祝ってくれる。幸せな人生の始まりだった。

正月に私を出産した母はどんなに大変な思いをしたことか。大家族の農家に嫁ぎ、私の上には4歳の兄と2歳の姉がいた。年末は家の大掃除や正月の準備、野良仕事そして子育てと母は休みなく働いていたと思う。朝8時、私は生まれた。家族のみんながおめでたい正月に生まれる子の産声を今か今かと待っていたに違いない。「オギャン！」私はこの世に人間として生まれた。

名前の「文」には学問の意味があることを知り、親は「学問に恵まれた」人生を私に望んでくれたのだろう。結婚して苗字が変わり新しい名前になったが私は私だ。でも2つの名前で生きてきたことで、人生はより豊かなものになったような気がする。書き人の名前は、26年間使っていた私の名前です。